



今年も梅雨明けとともに暑い夏がやってきました。田んぼには水が張られ、毎朝、セミの鳴き声で目覚める例年と変わらぬ暑い夏です。しかし、昨年に続き、新型コロナの流行によって、居合道の行事も審査会のみで、講習会や大会は行われておらず、県内の剣友のみなさまとお会いしたのは、かなり前のような気がしています。

このような中、一年延期となった"東京オリンピック2020"もはじまり、無 観客ではありますが、連日、日本をはじめ世界各国の選手たちの熱気が伝わってき ます(一部有観客の競技もあります)。

冬の長野オリンピックから23年ぶり、夏だと57年ぶりの日本開催でもあり、連日のメダル獲得がコロナ禍で暗いニュースが続く日本に元気と明るい話題を与えています。それもそれぞれの選手たちがこれまで間、自分の限界まで修練と努力を積み重ねて、気迫をこめて戦っていることが見ている人に感動と共感を与えるのだと思います。

ここで筆者が居合道の稽古をする中で、師匠からいただいた言葉を少し長いです

が紹介します。

"努力を怠るものは絶対に名人の域に達することは出来ない。努力を積み重ねれ ば、その人はやがて名人の域に達するであろう。大きい努力は多くの多くの経験を 内蔵している。豊富で困難な人生経験は、のるか、そるかの重大段階に臨んで必ず 本人にとって有利に働くものである。努力せず漫然とこれを期待するものは絶対に 名人の域に達しないものである。"

名人の域には達することは出来なくても、せめて見ている人に伝わる居合道を目 指して、努力を続けて、稽古していきたいと思います。

まだまだコロナ禍の先行きはみえませんが、明るい未来に期待し、早くコロナが 終息して、以前のような日常の生活が戻り、居合道の稽古ができるように頑張りま しょう。

教士 七段 和泉 修二





居合道七段合格にあたりいま思うこと

糸島錬心館道場 廣房 憲治

六月二五日大分県で行われました審査会で昇段させ ていただきました。

これも
井手友太先生、
糸島錬心館道場の
諸先生方を はじめ、
ご指導いただいた
先生方のおかげと感謝して おります。
誠にありがとうございました。

思い起されることとして、道場へ通い始めたころ、故、 井手克彦先生から「初発刀を1万回稽古すると初発刀 らしくなるよ、見ている人からは、この人は初発刀を

しているようだね、と思ってもらえるよ」と笑顔で言われました。また、最初は荒々しく、ぎこちなくとも思いっきりすることで、はじめは三角、次四角、五角、六角そして最後はマルを目指しなさいと、最初からものまねのマルではだめだと教えていただきました、居合道の道は遠いなと帰りながら痛感したのを覚えています。

居合を始めたときからの決意として「続けることが一番難しい」と自分に言い聞かせてきました、続けるには「直近の目標」「中期的な目標」を決めて目指して稽古をしてきました。昇段したばかりですが、あらためて今からでも続けていく事は難しいと感じています。

道場には五省の訓戒が掲げられています、その中でも特に「気力に敬くるなかりしか」「努力に憾みなかりしか」を自問自答しています。日々の稽古では今、何のためになるかわからないかもしれないが、着実に水面下では土台が出来ている、いつの時か水面から見えてきたときは崩れない護岸となると教えていただいています、これからも不安定な土台をしっかりしたものにしていきたいと思います。

今後も、稽古とは一より習い十を知り十よりかえるもとのその一、を念頭にレベルの異なるその一を繰り返し目指していきたいと思います。

出典:wikipedia < 五省 > : https://ja.wikipedia.org/wiki/ 五省

^{*1} 五省の一つ「氣力に缺くる勿かりしか」は「精神力は十分であったか」の意 *2 五省の一つ「努力に憾らみ勿かりしか」は「十分に努力したか」の意



八女地区居合道同好会 安部 輝幸 私が居合を始めたきっかけは30年ほど前、剣道の師 から勧められてからでした。

事情によりしばらく止めている時期が有りましたが、 再開したときに範十八段、杉森 鱗先生のお取り計ら いにより、五段のときに八女地区居合同好会に入会を させていただきました。

八女では小川内泰生先生の指導を受けることになり ましたが、先生はお仕事で海外赴任が長く、本格的に 指導して頂けるようになったのは帰国をされてから、 六段のときからでした。先生からは厳しくも手厚い稽

古をしていただきました。

また出稽古では大野城の國方孝之先生や、北九州の吉田初喜先生からもご指導を 受けることができました。

今回はコロナ禍の中、多くの施設が閉鎖されたことで、一緒に受審された方々も 稽古場所や時間に苦慮されたことと思います。

私も5月、6月は殆どの施設が利用できなくなりましたので、「日々の生活是即 ち居合道」の気持ちで、多くの稽古時間を自宅や職場のスペースを利用することと なりました。

道場で修業ができることの有難さを痛感したことで「道場は魂を磨く聖域なり」 を肝に銘じて、道場に対する礼節、感謝の気持ちを大切にして行きたいと思います。 審査合格に際しまして、これまで指導して下さった先生方、共に稽古をしていた だいた剣友の皆様に厚くお礼申し上げます。



水巻居合道同好会 堤 脩一 大分市での七段審査に、5回目の挑戦で合格しまし

4回目の挑戦で失敗して、落胆している私に友人が 言いました。

「継続は力なり」という言葉がある。何度失敗しても 次の審査に向けて継続して稽古を積み重ねていけばす こしずつ目標達成に近づくはずだ。その日に向かって 励め。

今回の合格は友人が言ったこの「継続は力なり」の 励ましがあったからだと思います。

次に、私が六段の時代にある先生がこう言われました。「段が人を作る」と。

五段になったらそれなりに修練稽古して五段らしくなる。

た。

六段になったらそれなりに修練稽古して六段らしい風格がでてくる。

七段になったらより一層の修練稽古をして七段としての品位風格を身につけてい かなければならない。

高段の先生方の御言葉が沢山あります。

「気剣体の一致」「解説書の行間を読め」「理合を理解しているか」「足腰で切れ」「目 付けで敵を知れ」・・・云々。

これらの頂いた御言葉の意図を理解するために、より一層の修練稽古に精進した いと思っております。

未熟ながら七段となりましたが、今後は指導者としての自覚のもとに微力ながら 後輩の指導育成にあたりたいと思います。

今後も各先生方のご指導ご鞭撻のほどをよろしくお願いします。



てしまいました。

七段審査を振り返り

水巻居合道同好会 田島誠 大分市の昭和電エスポーツセンターが審査会場で、 武道をはじめ各スポーツに対応できる素晴らしい施設 で、先ずは驚きました。

審査会当日はコロナ対策にて関係者以外は入館でき ず、静かな雰囲気の中にて1階のサブ道場で10分ほ どの軽い稽古のあと受付け会場に入りました。

ピーンと張り詰めた会場には30名程の待機者が居 ましたが、終始、会話もなく、ことさらに緊張を感じ

このコロナ禍において今回の審査に向けての十分な稽古が出来ず、ましてや昨年 までは七段受審など考えてもいませんでした。しかしながら、同好会の先輩、同輩、 後輩からの��咤激励もあり"挑戦してみよう"という前向きの姿勢を与えて頂きま した。故山下貞利範士がよく言われていた居合道での「身構え」「気構え」とりわけ、 居合は踊りではない、相手(敵)が居ること、そしていかに仮想敵を創るかを思い 起こし、自宅を改造して一人稽古に励んできました。

「今できることを精一杯やるだけ」そう思うことで、審査演武前には自然と肩の 力が抜け、丹田の意識が芽生えて7分間を抜き切ることが出来たような気がします。 全員が終わり、15分程待つと発表が有りました。

ボードに貼られた用紙に自分の番号があることを目にしましたが、嬉しさで何度 も何度も見直しました。2組目で受審された同じ道場所属の堤先生も合格され、二 重の歓びに心の震える思いでした。

水巻道場の國武先生はじめ同好会の皆様の協力のお陰と心よりお礼申し上げま す。また近隣の先生方からもご助言、ご指導を沢山賜りました。あらためて感謝と お礼を申し上げます。

これからは、段位に恥じない様に更なる稽古を重ね、日々精進していく所存です。 よろしくお願いいたします。

八月・九月の予定

8月 1 日 四段以下居合道講習会

福剣連

福岡市総合体育館 武道場

9月 26 日 福岡県居合道段位審査会

福剣連

福岡武道館

編集後記

<オリンピックは力をくれる>

待ちに待って、賛否両論の中、1年遅れてオリンピックがついに開催されている。

序盤から番狂わせもあり、体操で、水泳で、またお家芸の柔道なども一筋縄ではいかないようです。

しかし若い力が育ってきているのもまた確かで、若年オリンピアン達の活躍は目を見張るものがありま す。スケートボードや卓球、力を振り絞ったソフトボールなど、話題にこと欠きません。

各アスリートが今までしてきたであろう「想像を絶する修練」を背中に、お互いをぶつけ合い、ギリギリのところで勝負が決まる。それが見ている人々に感動を与え、やがて自分も!との活力へと変わっていきます。それは居合もスポーツも何も変わりません。

また、サッカーやソフトではグラウンドに敬意を払い、柔道では道場に敬意を払い、相手を称える。これも「日本ならでは」の作法で武道の「礼」に通づるものがあるのではと思います。

惜しくも予選敗退したが、病気を乗り越えて帰ってきた池江璃花子さんは「こんなキラキラした舞台に帰ってこられて幸せ。また、この舞台に戻って来て、世界の選手と戦えるということは、こういう環境の中でも幸せだなって思いました」おもわず「おかえりなさい、待ってましたよ」と心で呟きました。

実はこんな寄稿(抜粋)をいただきました。匿名希望さんです。

不祥事に見舞われたオリンピックだが、始まってみれば、そんなものは全て吹き飛んで、連日テレビにかじりついて一喜一憂しています。

スポーツに限らず、何かを極めた人というのは、人を惹きつける力を持っていると思います。もちろん 居合でも諸先輩の先生方を見ていると、自分もこうなりたいと思わせてくれます。

しかしながら、努力し続けるのは難しく、何かと理由をつけては練習をさぼってしまうのが現実なのですが、オリンピックを見た今、少しずつでも努力を続けようと決意している自分がいます。

やはりオリンピックは素晴らしい。

==============

全く同感です。我々も一日も早く、皆で、元気に楽しく居合ができることを祈りましょう。 ゴールはもうすぐです!

© 公益社団法人 福岡県剣道連盟·福岡県剣道連盟 居合道部

第181号令和3年8月発行

発 行:福岡県剣道連盟居合道部

URL: http://riai.info/

発行人: 井手友太

〒819-1132 糸島市有田 36 番地 -1

TEL:092-322-0847

編 集:有限会社 FEW